

博物館だより

令和4(2022)年度の活動

令和5(2023).7

第28号

新潟市北区郷土博物館

〒950-3322

新潟市北区嘉山3452

TEL 025-386-1081

FAX 025-388-6290

museum.n@city.niigata.lg.jp



新コーナー「くらしを支えた手織り 葛塚縞」

令和5年1月から常設展示開始

葛塚縞くづつかじまは、葛塚の地名がついた木綿織物です。水に強い染めと太糸織りの丈夫な布は、この地域の低湿田での厳しい農作業に適した野良着用の布として評判だったと言われています。

江戸後期からは町の産業として発展し、力織機りきしょつき(電動機)が導入された大正時代には山形県・秋田県等へも販売されました。しかし昭和40年代後半、最後の織物工場が閉鎖し、その歴史は終わりました。

一方、昭和20年代まで、農家の女性たちは農閑期に手織り機はたで自家用の木綿布を織り続けました。たて糸は町で買い、よこ糸は10月頃に畑で収穫した綿を自分で紡ぎ、紡いだ糸は紺屋で染めてもらい、正月頃までに機織りの準備を終え、2～3月頃までに5反ほど織り上げました。

このたび分館解体を機に、この地域の暮らしを支えた葛塚縞の手織りを紹介するコーナーを本館に新設しました。展示の機では、葛塚縞手織りの会のご協力により、実際に糸をかけて織る工程をご覧いただけることになりました(原則毎月第2・4土曜午後)。本コーナーを通して、この地域の歴史・文化への理解を深めていただければ幸いです。

また、令和6年度には、館外で手織り機の実演を行い、北区の歴史・文化を紹介する機会を設ける予定です。

館長 伊藤 健

木崎村小作争議 100 周年で企画展と関連事業を開催 —新潟市北区特色ある区づくり事業—

木崎村小作争議は、小作農民が地主に対して小作料の引き下げを求め、さらに自らの生活の改善を目指した運動で、大正から昭和初期の農民運動として全国的にも知られています。令和4(2022)年はその100周年にあたることから、新潟市北区と当館が共催で企画展と関連事業を行い、木崎村小作争議とはどのような農民運動だったのかを紹介しました。

企画展や講演会には県内外より多くの参加者があり、この争議が当地で起こった出来事であることを改めて広く紹介する機会となるとともに、100年を経た現在でも多くの方にとって関心のある歴史的な出来事であることを改めて知る機会ともなりました。各事業の実施にあたっては、多くの方や団体からご協力をいただきました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

企画展終了後は、関連講演会の要旨をはじめ事業の記録等をまとめた冊子を刊行し、また地主の眞嶋家旧蔵の歴史資料を購入しました。今後、この争議をその前後の時代も含めながら考え、また、小作農民側・地主側双方の視点からより多角的に捉えて展示等で紹介できるよう、資料の整理を進めていきたいと考えています。

■企画展

「生活の向上を求めた小作農民と地主眞嶋桂次郎展 —史料でさぐる小作と地主それぞれの思い—」

本展では、当館所蔵の小作人側の資料で木崎村小作争議がどのような農民運動だったのかを紹介し、加えて、地主側の中心人物である眞嶋桂次郎の人となりが見える資料も展示・紹介しました。小作人たちと強硬に対峙した眞嶋はどのような考えの人物だったのかを探り、小作人側・地主側の双方の視点から木崎村小作争議を捉えようと試みました。

また、次世代に引き継ぐために令和3年度に修復した「無産農民学校西入口」の木製看板(市指定文化財)を修復後初公開しました。

- ・会 期 5/28(土)～8/28(日)
- ・入館者数 1,840人(ほかに別会場での事業参加者282人)
- ・展示点数 49点(歴史資料27点、写真15点、木版画等7点)
- ・展示構成 木崎村小作争議が起こるまで
木崎村小作争議のあらし
地主側の中心人物 眞嶋桂次郎とは
木崎村小作争議の顕彰活動について



企画展パンフレット



見学の様子

■講演会

木崎村小作争議をより深く理解するために、企画展会期中に講演会を2回実施しました。

- ・会 場 新潟市豊栄地区公民館 大講堂

①「近代日本における地主・小作関係の成り立ちと新潟県の農民運動 —木崎村小作争議前夜の時代状況を考える—」

- ・期 日 6/11(土)
- ・講 師 中村 元 氏(新潟大学 人文学部 准教授)
- ・内 容 地主と小作人の中で争議が起こるようになった時代背景(江戸時代からの変化)と明治・大正時代の社会・経済状況の変化、また、木崎村小作争議以前の新潟県内の動向・農民運動の展開という内容から、日本近現代史の観点から木崎村小作争議をどのように位置づけるかを考えました。
- ・参加者数 128人



②「地域社会と「人間らしさ」のゆくえ ―木崎争議と木崎村の歴史を考える視点―

- ・期 日 7/2 (土)
- ・講 師 大串 潤児 氏 (信州大学 人文学部 教授)
- ・内 容 ①争議で小作人側が求めた人間らしさとは、②女性・青年・子どもにとっての争議とは、③戦時下 (争議後) の木崎村や人々はどうかだったのかという3点に注目して、広い視点で改めて争議の歴史を読み直すことの必要性和、次世代へ争議をどのように伝えていくかを参加者に問いかけました。
- ・参加者数 117人

■木崎村小作争議ゆかりの地を巡る見学会

マイクロバスを使用し、半日で北区内の争議ゆかりの地や眞嶋桂次郎に関連する地を巡る見学会を企画展会期中に2回実施。木崎村小作争議五十周年記念碑(無産農民学校西入口跡)、鳥屋浦事件・久平橋事件の現場、一音寺、長行寺、北巡駐蹕碑などを巡りました。

- ・期 日 6/12 (日)、6/25 (土)
- ・講 師 阿部 紀夫 氏 (木崎村小作争議記念碑保存会)
曾部 珠世
- ・参加者数 6/12 (日)・18人
6/25 (土)・19人



■新潟市北区内中学生の企画展見学

北区内中学生に木崎村小作争議という地域の歴史を学ぶ機会として、企画展見学会を実施しました。中学生たちは、争議を学ぶとともに、常設展示見学や映像視聴を通して当地域の昔の米作りのようすなどを学び、小作農民の厳しい暮らしに想像を巡らせました。市民ガイド(ボランティアガイド)の協力により展示の説明などを行いました。

| 日程 | 見学校、人数 | 説明等 |
|----------|--------------------------|--------------------------|
| 6/29 (水) | 木崎中 2年 29人 | 川崎 裕子、曾部 珠世 市民ガイド 3人 |
| 7/6 (水) | 木崎中 3年 29人 | 川崎 裕子、曾部 珠世 市民ガイド 1人 |
| 7/7 (木) | 木崎中 2年 30人 岡方中 3年 21人 | 川崎 裕子、曾部 珠世 市民ガイド延べ2人 |
| 7/13 (水) | 木崎中 3年 28人 木崎中 1年 61人 | 川崎 裕子、曾部 珠世 市民ガイド延べ8人 |



企画展を見学した中学生の感想

- ・昔は泥に埋まって田植えをして、お米を作るのはすごく大変な作業で、自分が米を作っているのにそれを食べられないのはとても悲しいことだと思いました。
- ・小作農民は行動力があると思いました。
- ・小作農民側も地主側もより良い未来を目指していたと思いました。
- ・小作農民の「人間らしく生きたい」という言葉はすごく意味深いと思いました。
- ・眞嶋桂次郎は、農業が発展することが商工業の発展・国の発展につながると考えていて、農業が国の基本だと考える農業に理解のある人物だということがわかりました。
- ・自分にとって都合の悪い相手を「悪」と見てしまいがちになるけれど、違う一面も見てみるのが大切なんだろうなと思いました。

『2022 木崎村小作争議100周年事業 記録と追補』の刊行

木崎村小作争議100周年事業は、企画展開催前の資料調査や資料修復等のため、令和2～4年度の3ヵ年事業で実施しました。そのため企画展終了後に、その3ヵ年事業の記録、企画展の追補、講演会の要旨、「無産農民学校西入口」の看板修復報告、阿部紀夫氏の寄稿文（「顕彰運動の歩みと地元の木崎争議研究」）、争議ゆかりの地の紹介等をまとめた冊子を作成しました。（A4判17頁、200部発行）



資料購入

今後も木崎村小作争議について、継続的に調査・研究を行うため、企画展のために借用した真嶋家旧蔵資料を購入しました。

- ・購入資料 明治天皇北陸巡幸の際に真嶋家で用意した白縮緬に藍染めの敷物 (346.5×348.5 cm、木箱入)
段ボール20箱の文書類一式

右の写真の敷物は、明治11(1878)年の明治天皇北陸巡幸の際、内島見の近藤家で天皇の昼食休憩のために真嶋家が用意した敷物です。この時に、調理掛^{かひ}という役を務めた17歳の真嶋桂次郎のその後の思想・行動に強い影響を与えたことを象徴する資料です。

また、段ボール20箱の文書類(下写真3点)には、争議関連の文書のほか、江戸期から第二次世界大戦後に渡る文書があります。また、地域的には現在の新潟市北区の木崎・濁川・岡方地区や現新潟市東区域などに所有していた真嶋家の小作地の台帳や真嶋家小作人組合の関係書類なども含まれています。これらは大地主真嶋家の近代における小作地経営などを知ることができる文書群です。

今後、整理を進め、調査成果を展示等で公開していきたいと考えています。



白縮緬に藍染めの敷物



真嶋家旧蔵文書類



真嶋桂次郎の自筆原稿

1 展示活動

(1) 常設展示「阿賀北の大地と人々の暮らし」

(考古・歴史・民俗・芸術(書))

① 「暮らしを支えた手織り 葛塚縞」コーナーの新設

分館 横井の丘ふるさと資料館で展示・活用していた葛塚縞の手織り関係資料を、分館解体を機に本館ホールの一部に常設展示する新コーナーを開設。(表紙参照)

公開開始 R5. 1/4(水)～

(2) 企画展及び関連事業

① 常設展拡大企画 昭和の暮らし展—日々をいぞろ「食」の風景(前年度から継続)

常設展示の一つのテーマを掘り下げて展示する企画展。シリーズ6回目の本展では、さまざまな食事のシーンを通して活力あふれる昭和の一断面を紹介。

- ・会 期 R4. 1/4(火)～5/8(日)
- ・入館者数 2,406人(4/1～5/8は874人)
- ・展示点数 76点(民俗資料、写真資料、書籍等)
- ・展示構成 家での食事(普段の食事、特別な日の食事)
外での食事(レストラン、学校、旅)
体験コーナー ・天びん棒を担いでみよう
・食の思い出掲示板

● 展示解説会(期日・参加者数・講師)

- 4/23(土)・9人・齋藤 加奈
- 5/7(土)・10人・齋藤 加奈



展示解説会(5/7)

② 2022木崎村小作争議100周年事業

生活の向上を求めた小作農民と地主眞嶋桂次郎展
—史料でさぐる小作と地主それぞれの思い—

(2～4ページ参照)

- ・主 催 新潟市北区・新潟市北区郷土博物館
- ・会 期 5/28(土)～8/28(日)
- ・入館者数 1,840人(ほか別会場での事業参加者282人)
- ・展示点数 49点
(歴史資料27点、写真15点、木版画等7点)
- ・展示構成 木崎村小作争議が起こるまで
木崎村小作争議のあらまし
地主側の中心人物 眞嶋桂次郎とは
木崎村小作争議の顕彰活動について

- 講演会1 「近代日本における地主・小作関係の成り立ちと新潟県の農民運動—木崎村小作争議前夜の時代状況を考える—」

- ・期 日 6/11(土)
- ・会 場 新潟市豊栄地区公民館
- ・講 師 中村 元 氏(新潟大学 人文学部 准教授)
- ・参加者数 128人

- 講演会2 「地域社会と「人間らしさ」のゆくえ—木崎争議と木崎村の歴史を考える視点—」

- ・期 日 7/2(土)
- ・会 場 新潟市豊栄地区公民館
- ・講 師 大串 潤児 氏(信州大学 人文学部 教授)
- ・参加者数 117人

- 木崎村小作争議ゆかりの地を巡る見学会

- ・期 日 6/12(日)、6/25(土)
- ・講 師 阿部 紀夫 氏(木崎村小作争議記念碑保存会)
曾部 珠世
- ・参加者数 6/12(日)・18人、6/25(土)・19人

- 新潟市北区内中学生の企画展見学

- ・期 日 6/29(水)、7/6(水)・7(木)・13(水)
- ・講 師 川崎 裕子、曾部 珠世、市民ガイド
- ・見 学 校 木崎中学校177人(全校生徒)、
岡方中学校3年生21人

③ 美術企画 アートの世界を楽しむ展

—重なりあう線、混ざりあう色—

5人の作家の絵画・彫刻・工芸作品により自由なアートの世界を紹介。対話による鑑賞やワークショップによる創造体験を通し、大人から子どもまで楽しめる企画とした。

- ・会 期 9/17(土)～10/23(日)
- ・入館者数 666人
- ・出品作家 イシヤマヒロコ、高橋 清、高松 次郎、
鶴巻 加代、戸川 淳子
※太字は当館所蔵作品を出品
- ・展示点数 21点

- 作品鑑賞会「みる」を楽しもう(期日・参加者数・講師)

- 9/25(日)・7人・齋藤 加奈
- 10/16(日)・9人・神田 直子



作品鑑賞会(10/16)

●ワークショップ(期日・参加者数・講師)

- ①カタ カタ カタチ～ふんわりうかぶ雲のカタチを作ろう～
10/1(土)・4人・北上 あつ子 氏(元新潟市美術館学芸員)
- ②自分だけの《かたち》を作ってみよう
10/8(土)・9人・齋藤 加奈



ワークショップ①(10/1)

④ 常設展拡大企画

昭和のくらし展—着るたのしみ、装うたしなみ—

昭和のくらし展シリーズの第7回展。今回は、昭和30～40年代の衣服(洋服)にまつわる道具と関連資料を展示し、高度成長とともに豊かになりつつあった当時の服飾文化を紹介。

- ・会 期 R5.1/4(水)～5/7(日)
- ・入館者数 1,986人(1/4～3/31は1,404人)
- ・展示点数 33点(民俗資料、写真資料、関係書籍等)
- ・展示構成 紳士服—テーラー(洋服店)とテーラーメイド
婦人服—洋装を楽しむ女性たち

●展示解説会(期日・参加者数・講師)

- 2/5(日)・4人・齋藤 加奈
- 3/5(日)・8人・齋藤 加奈

●ワークショップ「毛糸であそぼう」(期日・参加者数・講師)

- 3/11(土)・8人・齋藤 加奈



展示解説会(3/5)

2 教育普及事業(講演会・講座・教室・講師派遣等)

(1)「北区のお宝マップ」第5版作成のための校正

平成19(2007)年度に当館が作成・発行した「北区のお宝マップ」の第5版を新潟市北区観光誘客推進協議会(担当:北区産業振興課)が印刷するにあたっての、記載事項の校正。
・期日と担当 10月、曾部 珠世

(2) 講師派遣

① 早通南小学校4年生総合的な学習

「新井郷川から世界へ(早通地区の水害と地形について)」

- ・主 催 新潟市立早通南小学校
- ・期 日 11/28(月)
- ・講 師 曾部 珠世
- ・会 場 新潟市立早通南小学校
- ・参加者数 96人

② 葛塚東小学校6年生総合的な学習

「ドリカム講演会(学芸員の仕事について)」

- ・主 催 新潟市立葛塚東小学校
- ・期 日 12/2(金)
- ・講 師 曾部 珠世
- ・会 場 新潟市立葛塚東小学校
- ・参加者数 123人

③ ご近所だんぎ「葛塚市のおはなし—市と歩んできたまち、人々との深い関係—」

- ・主 催 新潟市豊栄地区公民館
- ・期 日 12/8(木)
- ・講 師 曾部 珠世
- ・会 場 新潟市豊栄地区公民館
- ・参加者数 25人

④ とよさか中高齢教養大学

一般教養講座「現代美術への招待(4)」

- ・主 催 とよさか中高齢教養大学
- ・期 日 12/10(土)
- ・講 師 神田 直子
- ・会 場 新潟市豊栄地区公民館
- ・参加者数 30人

⑤ とよさか中高齢教養大学 一般教養講座「美術の物語(2)」

- ・主 催 とよさか中高齢教養大学
- ・期 日 R5.2/18(土)
- ・講 師 神田 直子
- ・会 場 葛塚コミュニティセンター
- ・参加者数 30人

(3) 他館主催事業への協力

① 絵本『福島潟と妖怪たち』(令和4年10月発行)の内容校正

- ・主 催 新潟市北区文化会館
- ・期 日 6月
- ・内 容 福島潟の干拓の歴史の記述についての内容の校正
- ・担 当 曾部 珠世

②「ビュー福島潟名誉館長 遠藤麻理さんと語る

福島潟の楽しみ潟」への出演

- ・主 催 新潟市北区
- ・事業名 特色ある区づくり事業(北区自治協議会提案事業)
- ・期 日 11/5(土)
- ・講 師 曾部 珠世
- ・参加者数 100人

③「羽田信彌木版画展—木崎争議をテーマにした「野良の叫び」(版画集)を中心に」への所蔵作品の出品にかかる作品取扱指導、作品輸送前後の作品点検、展示・撤収の立合い

- ・主 催 小さな美術館 季(新潟市江南区)
- ・期 日 11/14(月)、11/24(木)
- ・担 当 神田 直子・齋藤 加奈

④ 會津八一記念館の博物館実習での当館見学、概要説明等

- ・主 催 新潟市會津八一記念館
- ・期 日 R5.1/12(木)
- ・担 当 神田 直子

⑤ みなとぴあ歴史講座「にいがた／浜・潟・山の歴史と暮らし」潟回の見学会での展示説明・資料熟覧等

- ・主 催 新潟市歴史博物館
- ・期 日 R5.1/15(日)
- ・内 容 福島潟の成り立ち、水害、新田開発の歴史、潟端の暮らしの概説、常設展示室の民俗資料の説明、ドジョウカゴ製作工程関係民俗資料の説明・熟覧対応
- ・担 当 曾部 珠世
- ・参加者数 25人(午前の部・午後の部の合計)

(4) レファレンス

- ・市民の郷土史学習サポート、資料調査協力、歴史資料や郷土史関連図書の閲覧対応
- ・他の博物館や大学など研究機関への協力

3 ふるさと学習

学校や地域などと連携し、資料の紹介や展示見学の利用を図る。

(1)「むかしの道具コーナー」の設置(12ページ参照)

- ・会 期 R5.1/4(水)～3/26(日)
- ・会 場 集会室
- ・展示点数 18点(電化製品普及前の生活道具11点、写真パネル7点)
- ・体験コーナー(随時)
 - ・野良着を着てみよう
 - ・天びん棒をかついでみよう

(2) 学校教育の一環としての利用

① 新潟市立濁川小学校3年生

(社会科「かわる道具と暮らし」)

- ・期日と人数 7/15(金)、60人
- ・講 師 齋藤 加奈、曾部 珠世、市民ガイド2人
- ・会 場 常設展示室(昔の米作りから見る地球にやさしい昔の暮らし、福島潟周辺の昔の暮らしなどについての説明)、体験



濁川小学校の展示見学(7/15)

② 新潟市立葛塚小学校3年生

(社会科「かわる道具と暮らし」)

- ・期日と人数 R5.1/13(金)、89人(3クラス)
- ・講 師 齋藤 加奈、曾部 珠世、市民ガイド延べ3人
- ・会 場 集会室「むかしの道具コーナー」、体験

③ 新潟市立葛塚東小学校3年生

(社会科「かわる道具と暮らし」)

- ・期日と人数 2/8(水)、62人(2クラス)
2/10(金)、52人(2クラス)
- ・講 師 齋藤 加奈、曾部 珠世、市民ガイド延べ4人
- ・会 場 集会室「むかしの道具コーナー」、体験

④ 新潟市立木崎小学校3年生

(社会科「かわる道具と暮らし」)

- ・期日と人数 3/2(木)、75人(2クラス)
- ・講 師 齋藤 加奈、曾部 珠世、市民ガイド延べ4人
- ・会 場 集会室「むかしの道具コーナー」、体験、常設展示室(昔の米作りから見る地球にやさしい昔の暮らしの説明)

(3) 一般の地域学習の場としての利用

① 新潟文化財観賞会見学(木崎村小作争議展の説明)

- ・期日と人数 6/9(木)、20人
- ・講 師 曾部 珠世
- ・会 場 ホール

② 新潟市歴史博物館ボランティア見学(木崎村小作争議展と常設展示の展示説明)

- ・期日と人数 7/16(土)、22人
- ・講 師 曾部 珠世、市民ガイド2人
- ・会 場 ホール、常設展示室(北区の特徴の説明)

4 市民ガイド（常設展示ボランティアガイド）の活動

市民ガイド研修（スキルアップ研修、情報共有・情報交換）の実施、来館者対応についての調整の事務等。

(1) 活動実績

個人や団体の見学者に対し、常設展示を中心としたガイドを行うもの。

- ・一般団体見学対応 2回（見学者30人、市民ガイド延べ3人）
- ・個人見学対応 9回（見学者154人、市民ガイド延べ20人）
- ・学校見学対応 9回（見学者536人、市民ガイド延べ23人）

(2) 市民ガイド研修

市民ガイドのスキルアップと情報共有を図る目的で行う。令和4年度の研修4回はすべて当館で行った。

① 当館企画展関連研修と情報交換

「昭和のくらし展 一日々をいろいろ「食」の風景」での研修と、令和3年度の活動実績報告、4年度の予定、活動についての意見交換を行った。

- ・実施日 4/23(土)
- ・参加者数 市民ガイド5人
- ・担当 齋藤 加奈、曾部 珠世

② 当館企画展関連研修と情報交換

木崎村小作争議100周年事業企画展での研修と、同展の中学生見学対応についての連絡等を行った。

- ・実施日 6/19(日)
- ・参加者数 市民ガイド6人
- ・担当 曾部 珠世、齋藤 加奈

③ 当館企画展関連研修と情報交換

「美術企画 アートの世界を楽しむ展 ー重なりあう線、混ざりあう色ー」での鑑賞研修と、前期の活動実績報告・今後の活動の確認等を行った。

- ・実施日 10/22(土)
- ・参加者数 市民ガイド5人
- ・担当 齋藤 加奈、曾部 珠世

④ 当館企画展関連研修

「昭和のくらし展 ー着るたのしみ、装うたしなみー」での研修。

- ・実施日 R5.3/5(日)
- ・参加者数 市民ガイド5人
- ・担当 齋藤 加奈

(3) 市民ガイド定例会

令和4年11月より定例会を実施し、令和5年度の活動内容や方向性、課題解決に向けた話し合いを行った。

- ・実施日数 4日
- ・会場 当館

- ・参加者数 市民ガイド延べ18人
- ・担当 川崎 裕子・齋藤 加奈・曾部 珠世

5 葛塚縞手織りの会の活動（常設展示の手織り機技術伝承）

令和5年1月から常設展示中の葛塚縞コーナーで、「葛塚縞手織りの会」が手織り機の技術伝承活動を行うもの。

(表紙参照)

- ・定例活動日 原則毎月第2・第4土曜の午後（増減あり）
- ・活動日数 8日（R5.1月～3月）
- ・参加会員 延べ26人

6 博物館実習、職場体験等の受け入れ

(1) 博物館学芸員課程履修の実習生の受け入れ

- ・実習期間 8/23(火)～25(木)、9/4(日)～10/8(土)、12/26(月)～27(火)のうち7日間
- ・実習生 2人（新潟大学4年、川村学園女子大学3年）

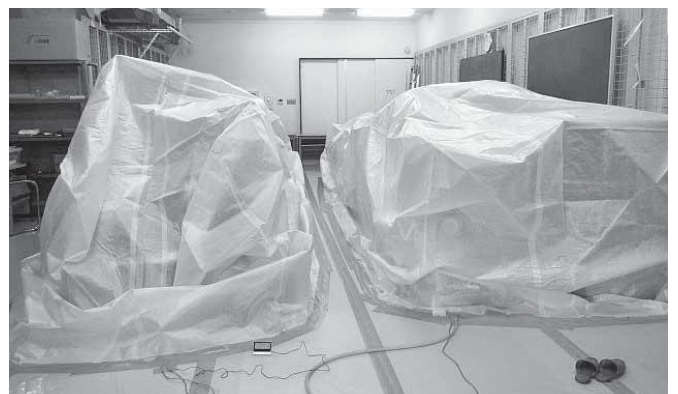
7 郷土資料収蔵庫の管理

- ・環境整備 ・虫の侵入防止 ・空調管理

8 所蔵資料（指定文化財含む）の保管・整理

(1) くん蒸処理の記録（郷土資料収蔵庫）

- ・収蔵資料のくん蒸処理（旧横井の丘ふるさと資料館からの搬出資料、令和3年度「昭和のくらし展」で展示した民俗資料、新収蔵資料等をくん蒸）
10/3(月)～10/7(金)
- ・防虫防菌処理 10/5(水)



郷土資料収蔵庫でのくん蒸（10/3～7）

(2) 所蔵資料の整理（民俗資料整理）

- ・収蔵資料の清掃・郷土資料収蔵庫への配架
作業日数 4日（外部依頼）
- ・くん蒸後の民俗資料等の郷土資料収蔵庫等への配架、手織り機の本館への搬入。
11/30(水)

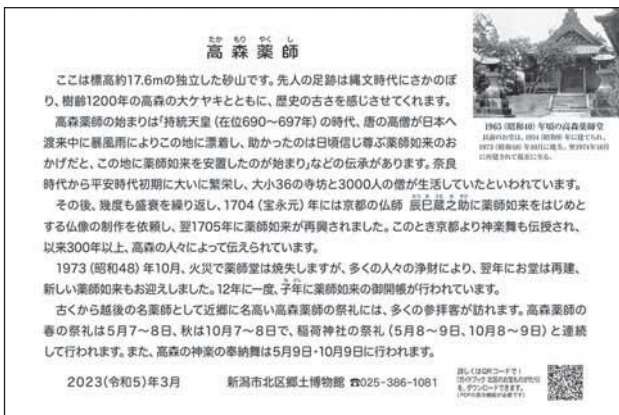
9 北区の文化財（指定文化財ほか）の調査整理・公開活用・保護

(1) 調査整理

- ・民俗資料整理（収蔵資料の清掃・郷土資料収蔵庫への配架）
作業日数 4日（外部依頼）（再掲）

(2) 公開活用

- ① 指定文化財の常設展示室での公開
- ② 令和3年度に修復した「無産農民学校西入口」の木製看板など「木崎小作争議関係資料」（市指定文化財）の企画展での公開
- ③ 文化財等説明板の修繕
 - ・板面修繕 3件
（三ツ屋の虫送り、高森薬師、大久保先生領徳碑）
 - ・塗装 5件（上記のほかに 新江用水、十二湯）



文面を改め写真を追加して修繕した文化財等説明板

④ 国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）の展示リニューアルのための複製品作製に伴う対応

- ・複製品を作製した木崎村小作争議関係の資料3点（市指定文化財「木崎小作争議関係資料」）
「無産農民学校西入口」看板
「あみものてらんかいに付て」
「農業組合時報」

(3) 保護育成

- ・くん蒸処理（収蔵資料等）（再掲）
- ・市指定天然記念物「大久保の大ケヤキ」に関する対応
（大雨による枝折れのき損対応、補助金申請にかかる相談対応、通行等の支障となる枯枝等の剪定にかかる相談対応）
- ・県指定天然記念物「高森の大ケヤキ」に関する対応
（大雪が原因と推測される枝折れのき損対応）

10 特色ある区づくり事業 「2022 木崎村小作争議 100 周年事業」 （令和2～4年度の3カ年事業の3年目）

詳細は2～5ページを参照。

11 旧横井の丘ふるさと資料館の解体に伴う業務

令和4年3月31日に廃止した分館の解体に伴う業務。

- ・資料搬出、郷土資料収蔵庫への搬入 9/4（日）
- ・資料のくん蒸 10/3（月）～10/7（金）（再掲）
- ・くん蒸後の民俗資料等の郷土資料収蔵庫収蔵室内等への配架、本館への一部移動 11/30（水）（再掲）
- ・建物解体 解体工事期間9/6（火）～R5.1/10（火）



手織り機の搬出作業



ハンリョウブネの梱包作業（写真上）と
搬出作業（写真左）



建物の解体（10月）

1 展示活動

(1) 常設展示 「阿賀北の大地と人々の暮らし」

（考古・歴史・民俗・芸術（書））

(2) 企画展及び関連事業

① 常設展拡大企画

昭和の暮らし展－着るたのしみ、装うたしなみ－

前年度1月からの継続。昭和の暮らし展シリーズ7回目。昭和30～40年代の洋服にまつわる道具と関連資料から、当時の服飾文化を紹介。

- ・会 期 1/4（水）～5/7（日）
- ・展示解説 4/23（日）・5/7（日）
- ・ワークショップ「毛糸であそぼう」4/29（土・祝）

② 所蔵作品公開 美術のなかの自然展2

「自然とはなにか」を手がかりに、現実の世界と表現された世界の違いに着目し、当館所蔵の絵画と立体作品により、作家独自の世界観と、作品として「表現された自然」について思い巡らす。

- ・会 期 7/22（土）～8/27（日）
- ・作品鑑賞会 7/23（日）・8/20（日）

③ 第1回新潟市北区こども作品展

新潟市北区の小学生が夏休みに取り組んだ創意と工夫に富んだ自由研究や作品を展示。（主催：新潟市北区）

- ・会 期 9/16（土）～10/9（月・祝）

④ 美術企画展 没後1年 西村満展－北のまなざし－（仮）

新潟市松浜（現新潟市北区）の風景を原点として、自身の内景と共鳴する世界を描き続けた西村満（1935－2022）の没後1年にあたり、代表的作品を展示して西村の「北のまなざし」を浮き彫りにする。

- ・会 期 11/18（土）～12/17（日）
- ・作品鑑賞会 11月、12月

⑤ 常設展拡大企画 葛塚縞展（仮称）

手織り機など、木綿織物「葛塚縞」関係の民俗資料の常設展示と関連させ、町の主要産業だった葛塚縞の資料を展示。

- ・会 期 R6.1/4（木）～5/6（月・休）
- ・関連講座 3月（講師 杉本 耕一 氏）

2 教育普及事業

（講座・教室・講師派遣・レファレンス等）

(1) 講座

① 歴史講座「じっくり見たい北区の碑（いしづみ）」1・2

- ・日時 6/4（日）、6/11（日）
- ・講師 本井 晴信 氏（元新潟県立文書館副館長）

(2) 夏休み体験教室

① 手織り体験 7/30（日）、8/6（日）

- ・講師 葛塚縞手織りの会

② ワラでなべしき作り体験 8/20（日）、8/26（土）

- ・講師 早川 ミハル 氏、成澤 清子 氏

③ 透ける紙で窓飾りづくり（市民ボランティア主催） 8/6（日）

(3) 第30回新潟市北区郷土芸能発表会 11/3（金・祝）

北区内の神楽・獅子舞・太鼓などの郷土芸能の公開。

(4) ふるさと学習

学校や地域などと連携し、資料紹介や展示見学の利用を図る。また「むかしの道具コーナー」を設置し、電化製品普及前の暮らしの道具を展示。小学校3年生の授業等での活用を図る。

- ・コーナー会期 R6.1/4（木）～2/29（木）

(5) レファレンス

- ・市民の郷土史学習サポート、関連図書等の閲覧対応
- ・他の博物館や大学など研究機関への資料調査協力

(6) 刊行物販売

3 市民ボランティアの活動支援

ボランティア養成に関する事務、活動サポート、研修（スキルアップ研修、情報共有、情報交換）の実施等の事務。

(1) メンバー募集

- ・ガイダンス講座 5/27（土）
- ・講師 なぐも 友美 氏（にいがた県内専門バスガイド）

(2) 市民ボランティアの活動

① 常設展示ガイド 団体見学等への常設展示案内

② 定例会・研修会

ボランティア活動のための情報交換や研修を館内外で実施。

③ 市民ボランティア主催ワークショップの実施（再掲）

4 博物館実習、職場体験等の受け入れ

- ・博物館学芸員課程履修の実習生の受け入れ 8月～9月

5 郷土資料収蔵庫管理

- ・環境整備 ・虫の侵入防止 ・空調管理

6 所蔵資料（指定文化財含む）の保管・整理

- ・歴史資料の整理作業（目録化等）
- ・民俗資料の整理作業（台帳化、郷土資料収蔵庫配架等）
- ・美術作品の整理作業（台帳整理等）
- ・外部依頼の整理作業（歴史資料目録のデータ入力等）

7 北区の文化財（指定文化財ほか）の関連事業

(1) 調査整理

(2) 公開活用

- ・指定文化財の常設展示室での公開
- ・第30回新潟市北区郷土芸能発表会（再掲）
- ・文化財等説明板の修繕

(3) 保護育成

- ・県指定天然記念物「高森の大ケヤキ」、市指定天然記念物「大久保のケヤキ」等に関する対応

8 北区郷土博物館 地域魅力発信事業（令和5～7年度特色ある区づくり事業）

3カ年で①常設展示拡張スペース整備・充実、②葛塚縞手織り機の実演、③郷土芸能の実演、④常設展示案内の追補版の発刊を行う。令和5年度は①を実施。

令和4（2022）年度 入館状況

10/31～1/3は、分館の解体に伴う資料の移動・整理、本館の常設展示拡張の作業、年末年始のため休館。
入館者数には館外事業での参加者数は含まない。館外事業の参加者数は欄外参照。

| 月別 | 入館者数(人) | 主な行事 |
|--------|---------|--|
| R4. 4月 | 628 | 昭和の暮らし展—日々をいろどる「食」の風景— 1/4～5/8 |
| 5月 | 617 | 昭和の暮らし展—日々をいろどる「食」の風景— 1/4～5/8（計2,406人 ※4/1～5/8は874人） 木崎村小作争議100周年事業 生活の向上を求めた小作農民と地主眞嶋桂次郎展 5/28～8/28 |
| 6月 | 647 | 生活の向上を求めた小作農民と地主眞嶋桂次郎展 5/28～8/28 |
| 7月 | 660 | 生活の向上を求めた小作農民と地主眞嶋桂次郎展 5/28～8/28 |
| 8月 | 445 | 生活の向上を求めた小作農民と地主眞嶋桂次郎展 5/28～8/28（計1,840人） |
| 9月 | 355 | アートの世界を楽しむ展 9/17～10/23 |
| 10月 | 445 | アートの世界を楽しむ展 9/17～10/23（計666人） |
| 11月 | 0 | 臨時休館 |
| 12月 | 0 | 臨時休館 |
| R5. 1月 | 469 | 昭和の暮らし展—着るたのしみ、装うたしなみ— 1/4～5/7 |
| 2月 | 417 | 昭和の暮らし展—着るたのしみ、装うたしなみ— 1/4～5/7 |
| 3月 | 518 | 昭和の暮らし展—着るたのしみ、装うたしなみ— 1/4～5/7（計1,404人 ※1/4～3/31の計） |
| 合計 | 5,201 | |

■館外事業参加者数 合計711人

・当館主催事業（木崎争議関連講演会・見学会）282人 ・他館等主催事業（講師派遣等）429人

寄贈資料紹介

令和4（2022）年度、次の方々より貴重な資料の寄贈を受けました。厚くお礼申し上げます。

【歴史資料】

本間 修一 様（北区）……………角三弦巻家旧蔵文書（明治～昭和期）一式
荒 孝夫 様（相馬市）……………越後国蒲原郡の検地帳（野口多右衛門控）計28点
松崎 祐子 様（仙台市）……………外国在留届（カムチャッカ遠洋漁業、昭和9年）、感謝状（昭和17年、松ヶ崎浜村国防婦人会尽力）

【民俗資料】

丸山 ミセ 様（北区）……………葛塚縞の野良着（上着13点）など計26点
松崎 祐子 様（仙台市）……………松ヶ崎浜村役場旧蔵柱時計
三間 重義 様（北区）……………背広（上着、昭和45年長沢洋服店仕立て）など計5点
早川ミハル 様（北区）……………機械編みのニット（ベスト）など計4点
五十嵐タツ子 様（北区）……………注文服のワンピース（昭和40年代半ばに製作）など計3点
神田トミ子 様（中央区）……………ツーピース（昭和39年製作）など計7点

【美術資料】

長谷川義明 様（西区）……………高橋清作版画《開かれた宇宙》《風紋》

【図書】

新潟郷土史研究会様（西区）……………新潟郷土史研究会編『郷土新潟 第62号』
新発田郷土研究会様（新発田市）……………新発田郷土研究会編『新発田郷土誌 第50号』
金子 益夫 様（北区）……………阿賀北広域組合『43年のあゆみ』
中村 元 様（西区）……………矢田俊文・中村元・長岡市立中央図書館文書資料室編著『災害史研究とチラシ・ポスター・絵葉書の資料学』など2冊
大串 潤児 様（松本市）……………大串潤児編『国策紙芝居—地域への視点・植民地の経験』など2冊
知本 康悟 様（江南区）……………知本康悟『村に立つ教育—佐渡の僻村が挑んだ「村を育てる学びの共同体」の創造—』
長岡ペンクラブ様（長岡市）……………長岡ペンクラブ編集委員会『Pence No. 47』
岡村 鉄琴 様（西蒲区）……………新潟大学大学院現代社会文化研究科・越佐文人研究会編『新潟人文研究 第25号』
立本 紘之 様（東京都）……………山口輝臣・福家崇洋編『思想史講義【戦前昭和篇】』
駒形 颯 様（五泉市）……………駒形颯『妻有今昔物語』
小日向昭一 様（東区）……………治安維持犠牲者国家賠償要求同盟新潟県本部編『越佐の黎明を彩る人々 新潟県治安維持法犠牲者名簿』
玉 真之介 様（宇都宮市）……………玉真之介『新潟県木崎村小作争議 百年目の真実』
倉地 一則 様（東区）……………新潟文化財観賞会編『観賞 第44号』
早津 剛 様（魚沼市）……………早津剛『雪国の民家 魚沼』

（寄贈のお願い） 当館では、資料の充実を図るため収集活動を行っています。ご寄贈いただける資料がありましたらお知らせください。

小学校3年生の授業に対応する「むかしの道具コーナー」を開設しました!



新たなふるさと学習の場として、令和5年1月4日(水)～3月26日(日)に当館所蔵の昔の道具(民具)を展示する「むかしの道具コーナー」を設けました。一般の来館者が見学するほか、小学校3年生の社会科授業にも対応する展示です。

令和4年度は、氷冷蔵庫・釜・洗濯板・炭火アイロンなどを展示し、電気・ガス・水道や工業製品が少ない頃の生活を紹介しました。あわせて、水道が無い頃に行っていた天秤棒を担いで水を運ぶ体験と野良着の試着体験ができるスペースも設けました。



天秤棒・野良着体験スペース



野良着の試着体験のようす



天秤棒で水運び体験のようす

子どもたちは実物の昔の道具を見て体験して、先生方の授業に加え、実際に昔の道具を使ったことがある市民ガイド(ボランティアガイド)の経験談や学芸員の説明などを通して、現代との違いに興味を持ち、理解を深めていました。

「むかしの道具コーナー」は令和6年1月4日(木)～2月29日(木)も設置します。学校での見学については、各校の要望や時間等に応じて対応いたしますので、ご活用ください。



小学校3年生の学習のようす

昔の農具などを展示している常設展示室では、昔の米作りの話などを通して、この地域の昔のようすや米収穫後のワラを利用して道具を作った先人の知恵と工夫、物を大切に地球にやさしい昔のくらしについても学習できます。

